

東京藝術大学 先端芸術表現科 卒業 | 修了制作 2010

Tokyo University of the Arts Inter-Media Art Graduation Works 2010

誰とも知れぬ〈ひと〉と、得体の知れぬ〈もの〉と、出会う〈こと〉。それは私たちの所属する先端芸術表現科の中で、日常的に起こっていることです。科の英語名が示すように、出自や文脈、興味も表現のテーマも異なる個人が、時に交差し、時に衝突し、時に融和する。そのような出会いの場として、この学科は機能しているのです。だとすれば、こうした科のあり方のすべてが凝縮されて提示される機会である卒業制作展・修了制作展が、一部の狭いコミュニティの中でだけ享受されるものであってはならない。私たちはそう考えました。そこで最初に行ったのは、タイトルから「展」の文字を消すことです。特定の言葉によって表現の枠組みを制限するのではなく、作る側の多様性も見に来る側の多様性もひっくるめて受け入れることができる、大きな器を用意することが必要だと考えたのです。もちろん、枠組みの拡張はタイトルだけではありません。上映

形式をとる作品の為にシアター企画や論文・ポートフォリオ閲覧場所作りなど、会場構成にもメスを入れていきます。さらに今年は、広報のあり方を根本的に見直しました。過去の広報先の整理と新たな広報先の開拓——作り手たち・運営者たちの制作過程での思考や視点を公開していく広報ブログなど、毎週更新・情報満載のウェブサイトの作成——開催地横浜でのピラ配りをはじめとする広報イベントの実施、美術の枠を越えた多様な文化発信プロジェクトの可能性を考えるフォーラムの開催——すべてはこの文章を読んでいるあなたと顔を合わせ、言葉を交わすための試みです。私たちの目指す「卒業 | 修了制作2010」は、出会うはずのなかったものたちが一堂に会し、さらにそれがシャッフルされる場所なのです。“ぜひ一緒に、PARTYを楽しみましょう。”これが私たちの掲げるコンセプトです。

1/16(sat) - 24(sun) | 11:30-19:00

BankART Studio NYK

東京藝術大学 先端芸術表現科卒業 | 修了制作2010
Tokyo University of the Arts Inter Media Art Graduation Works 2010

主催：東京藝術大学先端芸術表現科卒業 | 修了制作2010実行委員会

協力：BankART 1929

会期：2010年1月16日[土]-24日[日] (会期中無休、入場無料)

会場：BankART Studio NYK

開場時間：11:00-19:00(最終日のみ17:00まで)

お問い合わせ：[Tel]090-3960-0801 / [Email]sentan2010@gmail.com

ウェブサイト：卒業 | 修了制作2010公式ウェブサイト：<http://www.sentan2010.com>

先端芸術表現科公式ウェブサイト：<http://www.ima.fa.geidai.ac.jp>

オープニングパーティ：1月16日[土]18:00より

【フォーラム】

「ProjectとProjectors —— “投げかけ”の未来像——」

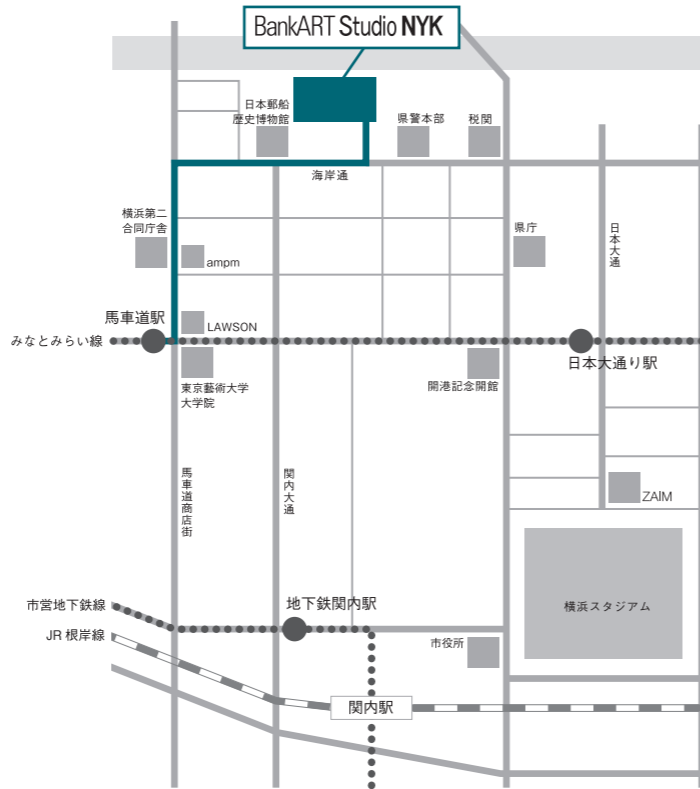
2010年1月23日[土] | 15:00- 入場無料

近年各地で行われるようになった地域型アートプロジェクトや、廃校などのリノベーションによるアートのスペースの設立は、試行錯誤の段階であった時期を過ぎ、いまや社会に広く認知され、定着してきています。またこうした波を受けて、従来からの美術ギャラリーにもすでに様々な変化が見受けられます。このような状況を、私たちはどのように捉えるべきか、その意義や問題点、そこで脈動している新しい試み、美術の枠を越えた多様な文化発信プロジェクトの可能性を考えることは急務であり、2010年という、新たな10年の始まりの年はその絶好の機会と言えるでしょう。

先端の持つ多彩な人材ネットワークを中心に、展覧会・プロジェクトというキーワードに異なる職業性や視点、意識を持って携わっている方々をパネリストにお招きし、会場となる「卒業 | 修了制作2010」もまた対象とされていくような議論の場を展開していきます。フォーラムを開催することで、来場者の方々に、鑑賞のみでなく、イベントそのものに託されたコンセプトや問題提起の一端を生で体験して頂ける参加のチャンスになればと考えています。

パネリスト：先端芸術表現科現教職員に加え、数名の外部ゲストを予定。

※詳細はウェブサイトをご覧ください→



交通案内：横浜みなとみらい線「馬車道駅」6出口[万国橋口]から徒歩4分
BankART Studio NYK / 〒231-0002 横浜市中区海岸通3-9

www.sentan2010.com



TOKYO UNIVERSITY OF THE ARTS
INTER MEDIA ART
GRADUATION WORKS 2010

東京藝術大学 先端芸術表現科 卒業 | 修了制作 2010

Tokyo University of the Arts Inter-Media Art Graduation Works 2010

1/16(sat) - 24(sun)

BankART Studio NYK

東京藝術大学 先端芸術表現科 卒業 | 修了 制作2010

一度見ただけの風景を、まるで写真の様に正確に描き再現できる特別な記憶能力を持つ人がいるらしい。それとは逆に、私たちは適度に忘れる事で日常生活を送っている。生きる為に有用かどうかという基準で無意識下に取り捨選択し、やり過ごしている訳だ。「やり過ごす」というのも、ある意味では能力と呼んでよいだろう。自分と世界の関係を穏便に済ませていく。

しかし、創作の喜びを知った若者たちはそうは行かない。創造することで、流れ去る時に楔を打とうとしている。

もしも、言葉の利便に媚びる事無く、自らの経験に正直に対峙した作品であれば、私は一生記憶し続けることを約束する。

鈴木理策 | 先端芸術表現科 准教授 | 写真家

作品制作にはリズムがある。思考する時、準備する時、実施していく時。思考する中にもいくつかの段階がある。準備の仕方においても強弱がある、制作実施はなおのことメリハリが時間の流れの中になくは続かない。自分に合ったそれぞれの時間の配分があり、それは繰り返し経験を積む中でないと見つけることは出来ない。卒業修了制作の場はそのリズムの手ごたえを掴む時である。

日比野克彦 | 先端芸術表現科 教授 | アーティスト

先端では、卒業・修了制作に向けて展示場所を探すところから、広報、展示、記録までを一貫して学生の実行委員会が担っている。先日、学部学生委員の1人から、タイトルから「展」をはずし「美術の枠を越えた多様な文化発信プロジェクトの可能性を考える」フォーラムを企画していると聞いた。「project the projectors」というタイトルの下、都内の廃校を会場に卒業制作の発表をおこなったのが先端2期生であり、それから早くも10年を経た。この間、先端では多くの教員の入れ替わりがあり、全国各地でプロジェクトと名付けたイベントも頻繁に開催されるようになった。3年次から研究室制で、それぞれが学外とつながって活動している先端では、学年の全体像はなかなか掴めなくなっている。巷のアートシーンにも様々な変化があり、その影響は直接的に学生の作品にも見られるし、学部生と、他大学から多くの入学者がいる大学院生では、学年や経験の違いとばかりとは言えない意識の差も生じているように感じられる。卒業・修了制作を同一会場（BankART Studio NYK）に集めての発表が、どのような問題提起の場所として開かれるか、大いに期待したい。

(故)渡辺好明 | 先端芸術表現科 教授 | 美術家

2009年11月4日にご急逝されました。

懐んでご冥福をお祈り申し上げます。

百花繚乱ということばがあります。いろいろの花が咲き乱れるありさまばかりではなく、すぐれた業績や人物が一時期に現れる現象をさすこともあります。

今回、卒業修了を行う学生たちひとりひとりは、既存の方法や手段にとらわれるのではなく、みずからの立脚点を疑い、新たな表現を生み出していく意欲にあふれています。

その繚乱たる結果を会場に足を運んでいただき、確かめてくださるようお願いいたします。

長谷部浩 | 先端芸術表現科 准教授

贈る言葉

この11月、101歳の誕生日を迎える直前に亡くなったロード＝レヴィ・ストロースが美術に強い関心を抱き続けていることはよく知られています。彼が特に心惹かれたのはプリティシュコロンビアの先住民に伝わる多種多様な仮面のネットワークでした。ひとつひとつの仮面ではなく、仮面の関係や繋がりと言ってもいいでしょう。それらの仮面はすべて一定の変形（メタモルフォーゼ）を通じて互いに繋がっています。そこで大切なのは、何を表象しているかではなく、何を変形させたか、つまり何を表象しなかったかということでした。仮面は単一の意味を持つというより、むしろ“凝縮された夢”のように、特定の文化的背景と関連する意味の群れが何重にも重なった結果としてあらわれてきたものなのです。先端芸術表現科も11年目を迎え、新たなステージに踏み出さなければならない時代にありますが、今年度のB4、M2のみならず、卒業生修了生の膨大な作品群にはその“凝縮された夢”の連なりが見とれます。多様なネットワークのなかで何を表象しないことにしたか、をそれぞれが考えてみることはとても重要なことのように思います。美術は人の心のメカニズムとその構造を共有しています。つまり美術の創造は私たちが私たちの心の仕組みを対象化することに他なりません。そのことを忘れずに広義の意味での作品づくりをこれからも持続して行って欲しいと思います。良い航海を。

伊藤俊治 | 先端芸術表現科 教授 | 美術史家、美術評論家

「先端」は、ちょっと変わっています。絵を描いている人もいれば、立体作品を作る人もあり、空間を構成する人もいれば、写真を撮る人もあり、文章を書く人もいれば、ある企画の全体をその表現とする人もいます。また、美術学部でありながら、音楽や、映像を扱う人も少なくありません。科の英語表記は「Inter-Media Art」。表現の手段を固定的に扱うのではなく、各人がそれぞれのメディア領域を横断していくのだ、という学科設立の方針がそのまま反映されているのがこの名前です。そんな先端の卒業・修了制作展も、今回で7回目を迎えました。科の設立当初とは教員も方針も学生の性質も変わりつつある中で、その変化の季節に立ち会わせた学生たちが描きだす、それぞれの、そして先端の「転換点」にどうぞご期待ください。

先端に関わって10年。今年の卒業生は8期生になる。この学年が一年生として先端に入学してきたときは、男子も女子も個性的というか、ワイルドというか、とにかく元気が良かったことを覚えている。私は一年時の担任だったので、特にその記憶が濃厚だ。彼らの際立った個性に最初は不安を抱きながらもその未来についてとても期待していたのだ。しかしながら、だんだんと学年が進むにつれて当り前に皆少々おとなしくなってきたような気もしている。

また、今年度のM2の内務生は、偶然にも学部で6期生であり、院でも6期修了ということになる。66か…。今年度のM2学年の最初の印象は、とてもおとなしい感じだった。B4もM2も共におとなしい印象という事になる。おとなしいという事は元気が無いということでもあるが、また同時に様々な気配りや配慮があり知的に感ずるということでもある。今年度の卒業展は共同で、BankART Studio NYK一ヶ所で行われる。これは見るものにとってはありがたい。だが共同というのは簡単なものではなく以外に骨の折れる作業である。学部4年も院2年もその調整能力を多に発揮してこの展覧会を築き上げた。実は大人しさとは上辺だけの印象で奥に秘めた猛々しさやパワーを発揮しているのかも知れない。またその特徴を最大限に武器としてその展示に発揮しているかもしれない。どうなるのか今から楽しみである。

佐藤時啓 | 先端芸術表現科 准教授 | 美術家、写真家

今回の先端の学部生と修了生の特徴としては、各々の表現を持って、積極的に、大学外の社会や環境に打ち出した学生達が多く見受けられます。

彼らの行動力の結果は、BankART Studio NYKに集まります。彼らの表現は、さらに開かれた場所へ行けるのでしょうか。

作家や作品は一人では出来上がりません。

表現者としての自立を促し、開かれた場所へ連れていってくれるのは観者です。そんな観者にとって卒制・修了展は「表現者としてのほじまり」に遭遇できる貴重な機会かもしれません。

教員である私は学生のセコンドにつくような気持ちで、良き遭遇が起こることを期待しています。

小谷元彦 | 先端芸術表現科 准教授 | 美術家、彫刻家

先端芸術表現科の学部が発足して11年。修士課程、博士課程も加わり、大学システムのなかで形を整えてきた形跡はある。今回の卒業制作展、修了制作展メンバーの先輩たち。先端出身者たちは多岐にわたる分野で活躍し、あるいは惑い、苦悩し、何度も試みと挫折を繰り返している者もいるかもしれない。のっけから暗い話で御免なさい。なあって、これをなぜ「暗い」と言ってしまうのか？たいていはまだ20代、30代の人が安心し、安定し、満足しているほうがおかしい。それこそ先真っ暗だ。分らない、迷う、ぶち切れる、破裂する。だから、躍動のなかから激しいものが、頑なもの、揺らぎが、生命を突き動かす。その発現形態と様式はさまざまだ。静かだったり、大袈裟だったり、一途だったり、気取りだったり、混沌だったり。

それを未熟とは思わない。過程のなかの赤裸々な表現として見つめたい。言うまでもなく、他者、それも不特定の他者に見せる展覧会である。意志と意図を最大限傾注して、いま自分にできる限り、責任の取れるものにして提示しているはずだ。能弁なものも寡黙なものもある。何かの前で、何かの後である、その狭間の瞬きを現認するのが楽しみだ。

木幡和枝 | 先端芸術表現科 教授 | アート・プロデューサー

先端芸術表現科という場＝星を産む混沌（ニーチェ）で、学生たちが学んだ事は学ぶ事的前提を取り去るアンラーン（unlearn）の過程ではなかったかと思う。そのことにより初めてtechné（芸術）がアート（芸術）と呼べるメタレベルを持つ表現へと立ち上がることが可能になる。卒業・修了制作展はこの長いメロディーの中に置かれたスフォルツァンド（音符に付けられた強いアクセント）のようなものである。

古川聖 | 先端芸術表現科 准教授 | 音楽家、作曲家

先端芸術表現科の卒業制作展、大学院先端芸術表現専攻の修了制作展ともに学生・大学院生が主導的に展示企画・運営をおこなう。学部生はテーマやメディア、作品制作への多様なアプローチの中に自らの立ち位置を探索し、大学院生は、より深い試みに制作を展開してきただろう。今年度は同じ建物での合同展示である。芸術は力をもつ。現実へのまなざしを変換し共感をよぶ。多彩な視点は新たな価値をうみだす。近年にない不確実で不透明な厳しい現実の今、未来を担う若い世代の意志ある個人の芸術表現、そして、展示総体が語りかける未知の風景に期待したい。

たほりつこ | 先端芸術表現科 教授 | パブリックアーティスト

芸術の歴史は未分化な自然界に対する敬い、驚き、畏怖し生と死のあいだで営む人間の思いから何かを求めて生まれてきた表現の一つだろうと思う。それを創る側、鑑賞する側、使う側それぞれ深く関わり、生活を心を豊かにしてきた。今でもそれは変わらない事だと思いつつも、混沌から世界の始まったという考え方があがるが、今日の自然界はそれとは異なった混沌の時代に差し掛かったようである。その混沌こそがテーマにも成りうるがなにせ加速が加わった消費文化の時代に生きて行かねばならないことが優先し、根源的な何かを置き忘れてしまい、より生理的、現象的な刺激的表現に成りやすく、使い捨て文化・アートが街を切なく練り歩いているように見えるのはなぜだろうか？

学生・院生が自分探しから始まりこの混沌とした状況に果敢に挑戦しているのを見ているが、大いに思い悩み、過去から未来へ繋ぐ礎となるように失敗を恐れず制作されることを期待している。

高山登 | 先端芸術表現科 教授 | 美術家、造形作家

ごあいさつ

こんにちは、「先端」です。はじめまして、の

方もいらっしやることでしょうか。私たちは、先端芸術表現科という、東京藝術大学の

美術学部で最も新しい学科の学部4年 | 修士2年生です。この度は横浜の

BankART Studio NYKにて、卒業制作並びに修了制作の発表を行う運びとなりました。「先端」は、ちょっと変わっています。

絵を描いている人もいれば、立体作品を作る人もあり、空間を構成する人もい

れば、写真を撮る人もあり、文章を書く人もいれば、ある企画の全体をその表現と

する人もいます。また、美術学部でありなが

ら、音楽や、映像を扱う人も少なくありません。科の英語表記は「Inter-Media

Art」。表現の手段を固定的に扱うのではなく、各人がそれぞれのメディア領域を横

断していくのだ、という学科設立の方針がそのまま反映されているのがこの名前

です。そんな先端の卒業・修了制作展も、今回で7回目を迎えました。科の設立

当初とは教員も方針も学生の性質も変わりつつある中で、その変化の季節に立ち

会わせた学生たちが描きだす、それぞれの、そして先端の「転換点」にどうぞご期

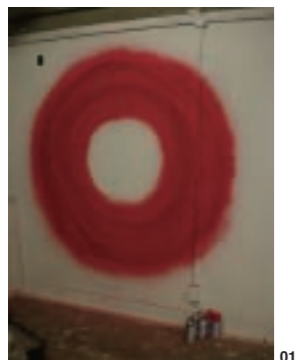
待ください。

卒業 | 修了制作2010を巡るキーワード

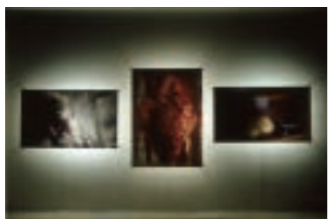
IMA [Inter-Media Art]

「先端芸術表現科」と聞いても、一体何をしている学科なのかよくわかりませんよね。しかし、それが英語表記の「department of Inter-Media Art」になるともう少しイメージしやすくなるかもしれません。「Inter-Media Art」とはジャンルにとらわれずにメディアを自由に横断していくアートのことです。

従来の美大・芸大では扱うメディアによって各科が編成されてきました。しかし本学科ではあらかじめ扱うメディアは定められていません。学生はどのようなメディアを用いるのかということから考え始めます。これまで映像作品を制作していた学生が、次の作品では身体表現を始めることも起こります。卒業生のなかには、「ラップ」をすることで卒業制作とした人もいました。また、絵を描くにしても、“何を用いて描くのか”というところから考え始めます。大きなパーカーを自分で作って、それをキャンパス代わりに絵を描く人もいます。先端では、扱うメディアにとらわれることなく、芸術の持つ意味そのものを「表現の問題」として問いかけていきます。そして、〈美術〉という領域を超えていくような、横断的な創造の場をつくりだそうとしています。



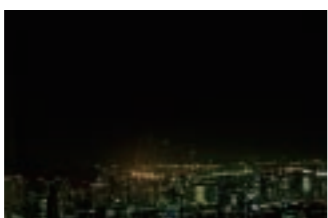
01



08



09



10



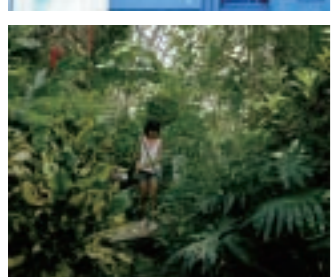
11



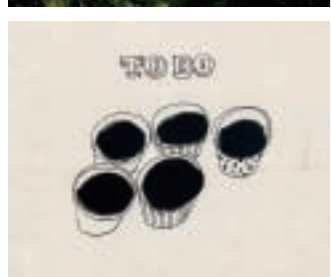
12



02



03



04



05



06



07



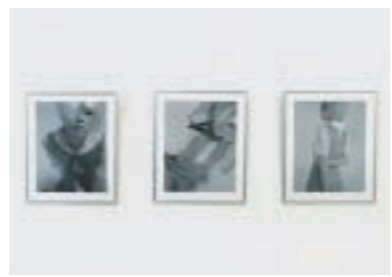
13



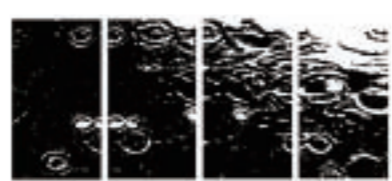
14



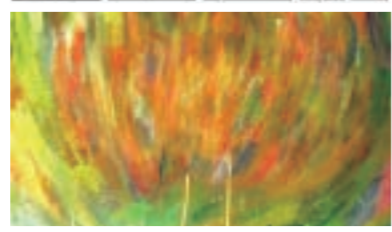
15



16



17



18



19



20



photo: 安藤瑠美

21



22



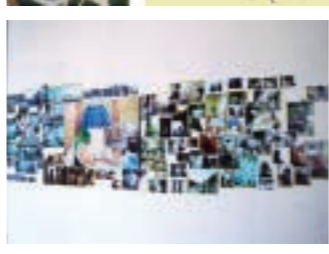
23



24



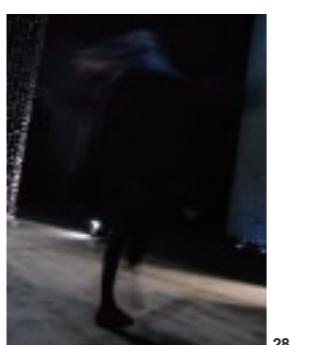
25



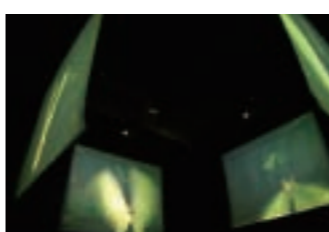
26



27



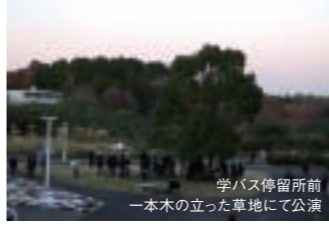
28



29



30



学バス停留所前
一本木の立った草地にて公演

31



32

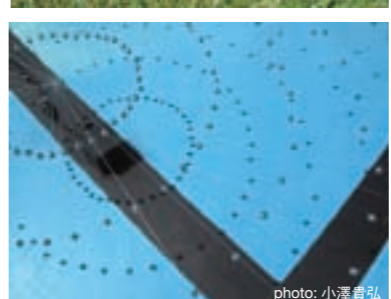
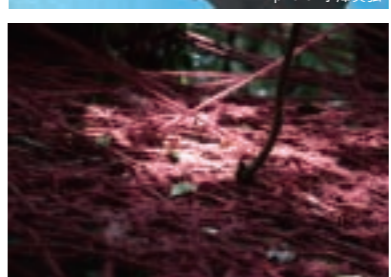


photo: 小澤貴弘

33



34

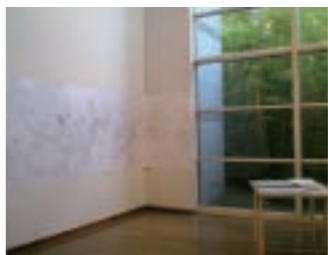


37

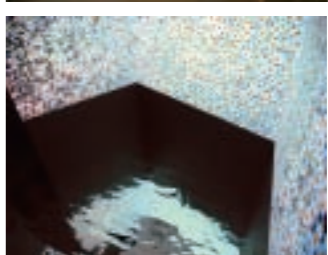
WIP [Work In Progress]

メディアを自由に選択・横断するということは、同時にそれを選んだ必然性——つまり“なぜそのメディアを選んだのか”に答えなければならないということでもあります。そのためには、まずもってそのメディアの性質を理解する必要があります。私たちは“メディアと自分とがどのような関係を結んでいるのか”ということを問われているのです。また、作品もメディアのひとつとして捉えられます。それは私たち制作者にとって、作品を媒介として、誰に何を伝えるのか、言い換えれば“誰と、どのような関係性を結ぶのか”という問いを前提にして作る、ということでもあります。これらの問いに答えるのは容易なことではありません。それは煎じ詰めれば“自分とは何か”という問いでもあるからです。まずは自身の内側にあるイメージやメッセージを、外部にあるメディアに、他者である受け手に投げかける。そしてそれに対する反応から、ある輪郭を発見することが必要です。それは終わりの無い、どこまでも続く営みでしょう。なぜなら、内側と外側、自己と他者の枠組みは常に揺らぎ続けているものなのですから。

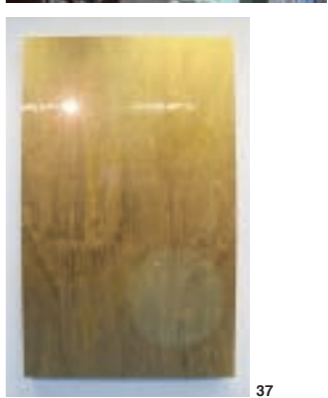
「Work In Progress」は、自分から投げかけて自分を発見することを、進行中の制作行為を通して行うこと、そしてそれを続けることなのです。先端では、全ての制作、発表の行為がWIPだといえるかもしれません。そう考えれば、大学で学んだことの集大成である卒業・修了制作でさえもまだ「進行中の制作行為」、通過点のひとつであると言えるでしょう。



35



36



38



photo: 土手里江子

39



40



41



42



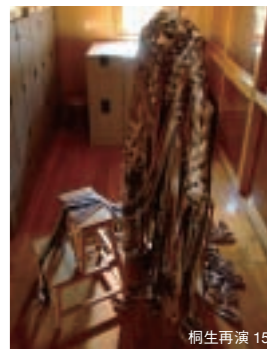
43



44



45



46



47

PTP [Project The Projectors]

先端は発足から現在まで、他科のように作品を提出するだけでなく、参加する学生たちが主体となって、作品発表の会場探しや、展覧会コンセプトやタイトルなどの議論を行い、卒業・修了制作展を企画・運営してきました。

“〈もの〉を作る”だけではなく、“〈こと〉を起こす”、というわけです。また個人の制作においても、作品が出来上がるまでに生まれた自分とメディア／素材との関係性を表現行為の重要な要素とします。それは作品制作・発表というプロセスの中で、メディアや素材との間に、また作り手と受け手との関係性に“〈こと〉を起こそうとする”行為だと言えるでしょう。

「Project The Projectors」とは、学生たちが自身の表現を媒介にして、外部に対して関係を持つとすること＝“〈こと〉を起こそうとする”行為の表明として、先端の学部2期生によって付けられた卒業・修了展のタイトルです。Projectには、「企てる」や「投じる」といった意味があります。まさに作品を制作、発表する学生たちは、“〈こと〉を起こそうとする者たち (Projectors)”であり、卒業・修了制作は“〈こと〉を起こそうとする (Project)”ための場なのです。



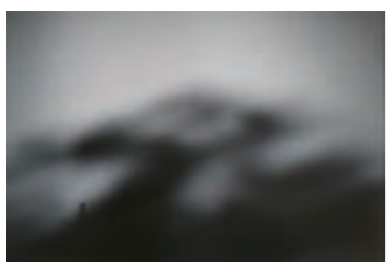
47



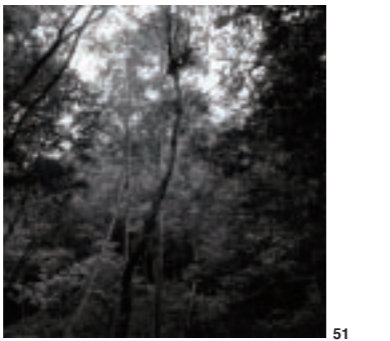
48



49



50



51

先端芸術表現科という科が新設されてから10年が経過し、教員の半数近くが入れ替わって、入学してくる学生たちの傾向にも変化が見られるようになってきました。私たち学生自身の実感する最も大きな変化は、先端の新設当時に重視された「メディアやジャンルの自由な横断」というよりは、用いるメディアを限定した上で、そのメディアについての知識や技術を重視し、それらのコンテキストに対して意識的であろうとする学生が増えてきたということです。この変化は、科の教育方針の変遷と密接に結びついたものなのか、あるいはより大きな、美術を取り巻く社会情勢の変化に伴うものなのか、それとも単にここ数年入学してきた学生の偶然的傾向に過ぎないのか――。いずれにせよ、今、あらためて先端がどうあるべきなのか、様々な出自と傾向をもつ学生・教員が共有する地平を、いかに見出していくのが、切実なテーマとなりました。

今年度、私たちはこの問題に答えるべく、これまで先端の伝統となっていた「PTP」というタイトルを外しました。その上で一から先端について、展覧会について、あるいは卒業・修了制作展という制度について考え直そうとしています。しかしながらそれは、私たちの「卒業|修了制作2010」から「PTP」という概念自体を払拭しようという態度ではなく、むしろ「PTP」の本来的な理念を継承するための行為であると言えるでしょう。だからこそ、私たちは「PTP」の表している事柄を、私たち自身の言葉で語り直さなければならないのです。



photo:Chori 52



53



54



55

01_中西祐輔 NAKANISHI Yusuke
「a circulation」2009
■見立て、方便
□zivago_fresh@yahoo.co.jp

02_藤井遼介 FUJII Ryohsuke
「明るい部屋で」2009
■映画
□owen_no_koyubi@yahoo.co.jp

03_安藤理美 ANDO Rumi
「dream islands」2009
■写真
□http://rumiando.web.fc2.com/

04_老田真衣 OITA Mai
「トドカッ」2009
■絵画、イラスト
□http://oitama.com/

05_石橋彩 ISHIBASHI Aya
「メリーさんのさくら(部分)」2009
■絵画

06_浅井健太 ASAI Kenta
「Tree」2008
■インスタレーション、パフォーマンス

07_西口友人 NISHIGUCHI Tomohito
「ゴミ男」2008
■映像
□oo0ppqq0oo@yahoo.co.jp

08_蘭 ZUI
「目を背けても見えてしまうモノ」2009
■立体
□http://ninomono.zw-zw.com/

09_柏崎由璃香 KASHIWAZAKI Yurika
「現代の武器／穴埋め機」2009
■インスタレーション
□powered.by.atom0422@gmail.com

10_伊福紗代 IFUKU Sayo
「アリヴェデパール、あるいは、冬の星座の翻訳」2009
■インスタレーション、写真、絵画
□http://12934.web.fc2.com/

11_渡邊実穂 WATANABE Miho
「ウォーターメロンクラッシャー」2009
■その時々
□http://watermeloncrusher.web.fc2.com/index.html

12_田口佳那子 TAGUCHI Kanako
「HAND」2007
■平面

13_秋元今日子 AKIMOTO Kyoko
「小人の部屋」2007
■絵画を中心に制作
□http://www.geidai.ac.jp/~s1106198/

14_坂田希究 SAKATA Kikyū
「風の音」2008
■サウンドアート、メディアアート

15_高野久美子 KONO Kumiko
「切断、再生、循環」2009
■ドローイング、文章
□ishibatake@hotmail.co.jp

16_青木禅 AOKI Shizuka
「rei III」2009
■写真、グラフィック、絵画
□bitty@jcom.home.ne.jp

17_高島淳 TAKABATAKE Jun
「無題」2009
■本、映像、インスタレーション

18_彩蓮 SIREN
「メリーゴーランド」2009
■パフォーマンス
□aya_a_go_go@yahoo.co.jp

19_清野仁美 SEINO Hitomi
「波多野物語 -風人なるものに関する収集-」2009
■インスタレーション、物語り

20_岩名慶子 IWANA Keiko
「untitled」2006
■ミクストメディア

21_潘逸舟 HAN Ishu
「君」2009
■インスタレーション

22_山田萌 YAMADA Mayu
「untitled」2008
■立体
□http://ubsl.web.fc2.com/

23_北澤理恵 KITAZAWA Rie
「怪獣のパラードをモウイチド」2009
「STW(静かなる抵抗への宴)」2008
■演劇、小説

24_竹内千尋 TAKEUCHI Chihiro
「もしもし」2008
■立体

25_志摩薫子 SHIMA Kaoruko
「one man show」2006
■絵画、ミクストメディア
□http://members.jcom.home.ne.jp/smith03/

26_川合穂波 KAWAI Honami
「エビタフ」2009
■写真、映像、絵画
□http://www.geocities.jp/seifen_schale/

27_中村浩司 NAKAMURA Kouji
「はざま#2」2009
■映像インスタレーション
□kouji@fuga.ocn.ne.jp

28_永田勝貴 NAGATA Yoshitaka
「高速回転」2008
■台本、それに伴うパフォーマンス

29_武藤麻衣 MUTO Mai
「1/120」2008
■映像
□gdmbd684@ybb.ne.jp

30_木村泰平 KIMURA Taihei
「1/10,000」2009
■立体
□http://ubsl.web.fc2.com/

31_後藤怜亜 GOTOH Lea
「ゴドーを待ちながら」2009
■音声放送やパフォーマンス
□http://tyoutinkensa.net/

32_佐々木友輔 SASAKI Yusuke
「薨 ghosts」2009
■映画
□http://qspds996.exblog.jp/

33_下平千夏 SHIMODAIRA Chinatsu
「声の行方」2009
■ミクストメディア
□simo1_41421356@yahoo.co.jp

34_石塚つばさ ISHITSUKA Tsubasa
「森の座」2008
■インスタレーション
□http://d.hatena.ne.jp/tsubasa_ishitsuka/

35_文谷有佳里 BUNYA Yukari
「drawing 生きた眺める風景」2009
■ドローイング
□http://ubsl.web.fc2.com/

36_黒川潤 KUROKAWA Jun
「DREAMING」2008
■ビデオ・インスタレーション
□http://web.me.com/studiojunk/

37_間瀬朋成 MASE Tomonari
「Tree of Life」2009
■絵画、インスタレーション

38_勅使美千代 TESHII Michiyo
「milk」2007
■インスタレーション
□teshi_mjp@yahoo.co.jp

39_上原耕生 UEHARA Kouo
「untitled」2009
■インスタレーション、プロジェクト等
□ueharakouo@yahoo.co.jp

40_高橋あい TAKAHASHI Ai
「ヤマ ムラ ノラ」2009
■type C-print
□takahashia.m@gmail.com

41_松下徹 MATSUSHITA Toru
「ケレン」2009
■平面、インスタレーションなど

42_生形三郎 UBUKATA Saburo
「Multistory scenery」2009
■電子音響
□s3260@hotmail.com

43_小田原のどか ODAWARA Nodoka
「↓」2008
■彫刻

44_岩井亜希子 IWAI Akiko
「sound park」2009
■サウンド、パフォーマンス、パブリックアート
□sons.et.couleur@gmail.com

45_李曼河 LEE Minha
「イノリをマトウ」2009
■インスタレーション
□minmin.yama@gmail.com

46_金徳喜 Kim Duk-hee
「Falls」2009
■インスタレーション

47_八幡亜樹 YAHATA Aki
「ミチコ教会」2008
■映像、写真など
□spiral_py@yahoo.co.jp

48_上田尚宏 UEDA Takahiro
「Model_001」2009
■立体、インスタレーションなど
□http://www.takahiro-ueda.com

49_笠島俊一 KASAJIMA Shunichi
「untitled」2009
■立体、インスタレーション
□http://www.skasajima.com

50_藤本涼 FUJIMOTO Ryo
「live on air(hoodgirl)」2009
■写真
□http://members3.jcom.home.ne.jp/moryo/

51_花形愛音 HANAGATA Aine
「トワイライト・シーン」2009
■写真

52_大西健太郎 ONISHI Kentaro
「まち」2009
■パフォーマンス
□onishikentaro@hotmail.com

53_鄭萬英 JUNG Manyoung
「Soundcube2.0-絵を描く機械」2009
■インスタレーション、映像、音
□http://young.isfreeweb.com/

54_明石雄 AKASHI Yu
「stormy/disoder」2009
■絵画、写真
□nyanchuudanyan@hotmail.com

55_金川晋吾 KANAGAWA Shingo
「father」2008-
■写真、映像
□http://d.hatena.ne.jp/kanagawashingo/

■主に使用するメディア
□mail/HP address